

## 平成28年度伸銅品需要改定見通し

平成28年9月16日  
調査統計委員会

日本伸銅協会調査統計委員会では、28年度の伸銅品需要見通しの策定を行なった。需要見通し(案)の策定に当たっては、品種別の統計調査専門委員が実績データ等を基に、あらかじめ委員会に提出した市場予測値を事務局が統計的に処理し、需要見通し案として調査統計委員会で審議の上取り纏めた。

28年度伸銅品需要見通しは、本年3月に調査統計委員会が772.1千トン(対27年度実績比+1.5%)を見通したが、今回780.8千トン(対前年度比+2.7%)に改定した。

### **1. 国内外の経済動向**

28年度の日本経済は消費税引き上げ延期によって、個人消費や駆け込み需要が発生せずけん引役不在の状況は続くと思われるが、28年夏の猛暑が消費を押し上げるのに続き、秋以降は米国を中心とする世界景気の緩やかな回復と円高圧力の緩和が見込まれることなどから、発表13機関の実質GDP平均では+0.6%(+0.3%~+1.2%)程度の微増傾向が予想されている。

鉱工業生産指数の28年度については13機関平均では+0.5%(0.0%~+1.4%)。設備投資：13機関平均+1.4%(+0.5%~+2.6%)。住宅投資：13機関平均▲0.6%(▲4.3%~+1.1%)を予測の前提とした。

消費税引き上げ延期されたが、第二次補正予算による公共投資を中心とした下支え効果や底堅い設備投資、原油価格の低水準を始めとした物価の下落に加え、世界景気の回復や金融市場の安定をなどから消費者のマインドも持ち直して行くと思込まれる。

海外は個人消費を中心として緩やかな伸びが続く米国に対し、欧州は英国のEU離脱を巡る先行きの不透明感が下押し圧力になると見られる。中国経済はGDP伸び率の低下が続き、28年は6%台半ばが予測されるなど緩やかな減速傾向が予想される。アジア新興国景気は中国の減速を背景に多くの国で鈍化傾向が続く。海外に移管した事業の国内回帰動向については、円高基調傾向がブレーキになるだけでなく、これまでの海外投資重視の傾向は変わらないと見られる。

見通し作成には、下記の経済レポートを参考にした。

- |            |              |          |
|------------|--------------|----------|
| ・三菱東京UFJ銀行 | ・みずほ総合研究所    | ・明治安田生命  |
| ・日本総合研究所   | ・第一生命経済研究所   | ・中国電力    |
| ・三菱総合研究所   | ・野村證券金融経済研究所 | ・建設経済研究所 |

## 2. 伸銅品の需要動向

### 2. 1 [全般傾向]

28年度は国内景気は緩やかながらも回復傾向を続けている。消費増税延期により駆け込み需要は見込めないものの世界経済の緩やかな回復が見込まれることから、年度下期以降は伸銅品需要全般についても回復傾向を辿ると見られる。主要品種の見通し動向は以下の通り。

銅板条・黄銅板条・青銅板条等の板条製品は、上期は自動車向けの電子材需要を中心として増加基調を辿った。上期同様に堅調と見られる国内需要に加え、海外の日系自動車需要は好調が続くと見られることから前年より増加すると見られる。半導体については海外を中心とした車載向けの堅調やスマートフォン向け電子機器の強含みが見込まれている。

銅管は28年度の猛暑予想からルームエアコン業界が積極的な生産を行ったことから好調に推移した。下期は夏場後半の天候不順や消費税延期の影響から若干減速の見込み。一方パッケージエアコンは、上期の回復基調が下期も継続すると見られる。

黄銅棒は、27年末以降の住宅需要の回復基調が継続しておりガス機器、水栓金具、バルブ・機械類は微増傾向。下期は消費増税の延期により内需向けは年度後半から調整も予想されている。自動車分野は安定的に推移、輸出は回復基調と見られる。

こうした品種毎の予測を行った結果、28年度の伸銅品改定需要見通しは780.8千トン（対前年度比+2.7%）と見通した。下期も回復傾向の継続が期待される。

(内訳) 上期	387.2千トン	(+2.6%)	下期	393.6千トン	(+2.8%)
内需	648.4千トン	(+2.4%)	輸出	132.5千トン	(+4.3%)

\* 上期と下期は対前年同期比

## 3. 1 板条製品

### 3. 1. 1 銅板条

28年度の銅板条需要は、好調に推移した上期の横ばいで推移すると見られる。

半導体分野においては上期車載向けが好調であり下期も継続の見通しだが、弱含み推移したディスクリットは下期も弱含みと予測される。

スマートフォン向けについては高度化、多機能化による採用拡大から増加してきた。

自動車向け国内需要については自動車生産台数に合わせ下期も好調に推移が予想される。海外需要は生産移管と需要拡大により27年度比微増を見込んでいる。熊本地震などでの需要減はすでに挽回されている。一方燃費不正問題や消費増税延期による駆け込み需要が期待できないといった不透明要素があるものの、海外需要についてはコンプリートノックダウン向け生産の好調維持、輸出ドライブの継続などから年度内は好調維持を見通している。

民生用コネクタ分野はパソコン向け減少、スマートフォン向けは増加している。今後は台頭する中国など新興国機器メーカーへの採用に期待。

デジタル家電については需要の落ち込みが継続。スマートフォン関連向けの伸びは期待できるがその他は総じて減少の見込み。

ブスバー・配電制御分野でスマートメーターはオリンピック向け需要が好調。その他電設関係は投資抑制の傾向で低調。太陽光向けは一部輸出で横這いを維持するものの、電力買い取り価格の低下を受け総じて減少したまま。銅棒への切換えの動きもある。スマートメーターは東電中心にオリンピック向け需要が堅調、その他電設関係は投資の抑制傾向で低迷。建設関連は思いのほか動いていない。

ガス機器については、上期の不需要期も比較的堅調に推移、下期の需要期も期待される。

輸出は自動車向け下期も好調が見込まれる。中国の小型車減税政策も下支えに寄与。汎用半導体や民生は需要減。東南アジアの資源安と通貨安で大きな回復は望めないが、総じて増加基調が予測される。

こうした状況により、銅条の需要は 245.4 トン（対前年度比+5.3%）と 27 年度比増加を見通した。銅板は 15.4 千トン（対前年度比+5.6%）の見通し。

(銅条内訳) 上期	122.6 千トン	(+5.1%)	下期	122.8 千トン	(+ 5.5%)
内需	174.0 "	(+2.1%)	輸出	71.4 "	(+14.0%)
(銅板内訳) 上期	7.8 千トン	(+5.6%)	下期	7.6 千トン	(+ 5.6%)
内需	13.8 "	(+6.5%)	輸出	1.6 "	(▲ 1.4%)

### 3. 1. 2 黄銅板条

自動車向け国内需要については銅条同様に下期も堅調な推移が予想される。

民生用コネクタ分野は用途、需要家により強弱の差があるが、長期低落傾向の白物家電向け等では一部需要が回復している。デジタル製品の需要は落ち込んできている。据え置き型ゲーム機のハード需要は引き続き縮小。

キー材の住宅用は変わらないが、自動車用はキーレス(スマートキー)の普及により減少傾向。流通分野では自動車関連やスマートフォン絡みを除くと低落傾向が続く。輸出は、円高基調への転換により日系材の競争力は再び低下しており、海外同業との競合が再燃しつつある。

こうしたことから、黄銅条の 28 年度改定見通しは 27 年度比増加の 97.6 千トンを見通した。(対前年度比+2.1%)。黄銅板は 7.4 千トン（対前年度比+3.9%）

(黄銅条内訳) 上期	48.6 千トン	(+3.6%)	下期	49.0 千トン	(+0.8%)
内需	88.4 "	(+1.3%)	輸出	9.2 "	(11.3%)
(黄銅板内訳) 上期	3.9 千トン	(+4.5%)	下期	3.5 千トン	(+3.3%)
内需	6.3 "	(+3.6%)	輸出	1.1 "	(+5.7%)

### 3. 1. 3 青銅板条

スマートフォン向け需要は拡大しており好調に推移している。一方新機種サイクルにより下期は春先まで調整を予想している。

デジタル家電はデジタル機器全般に市場縮小が進んでおり、今後も需要減が進むと見られる。白物家電向けの汎用コネクタ需要については回復の動きも見られる。

リレー・スイッチ分野では、車載向け、センサースイッチ関連は若干の調整基調。一般民生部品は復調の兆しは見えない。自動車は足許の堅調な水準が継続すると見られる。半導体は比較的堅調な推移が継続するが下期はスローダウンの見込み。輸出については、円高基調への転換により日系材の競争力は再び低下しており、海外材との競争が再燃しつつある。

こうしたことから、28年度は31.1千トンと、27年度比減少を見通した。(対前年度比▲5.9%)。

(内訳) 上期	15.4千トン(▲14.6%)	下期	15.7千トン (+4.6%)
内需	21.6" (▲3.8%)	輸出	9.5" (▲10.4%)

### 3. 1. 4 洋白他板条

ベリリウム銅、チタン銅等の高強度材については、新規用途での採用は進むが、同時に銅系他品種の採用も進行し、全体的な市場拡大には繋がっておらず、内需は低下傾向が続いている。

水晶振動子は円高基調への転換により、国内需要向けは低迷している。

自動車向けは中国の減税効果や熊本地震の挽回資産もあり、下期は堅調な推移を見込む。

輸出向けのうち米国は低迷継続、韓国、中国は比較的堅調。円高により総量は減少の見通し。

こうしたことから、28年度は5.0千トンと前年度減少を見通した。(対前年度比▲11.4%)。

(内訳) 上期	2.3千トン (▲27.5%)	下期	2.7千トン (+9.4%)
内需	3.2" (▲9.9%)	輸出	1.8" (▲13.8%)

## 3. 2 管製品

### 3. 2. 1 銅管

28年度のルームエアコンは、26年度夏以降の消費増税反動減から在庫一巡による回復を示した。また28年度の夏前半については猛暑予想通りの暑さとなり、ルームエアコン販売も好調に推移した。夏場後半の天候不順の影響や29年4月に予定していた消費増税延期の影響などから、エアコン生産は減産基調に変化しているが、それでもルームエアコン国内出荷の28年度としては850から900万台の高水準を見込んでいる。

パッケージエアコンについては、それまでの調整から28年度に入り回復基調に転じ、下期も同様の傾向を辿ると見られ80万台前後の出荷が期待される。需要に影響する大型物件については建設分野での慢性的な人手不足などもあり足元受注件数も伸び悩んで

いることから大きな上積みは期待できない。

エコキュートは震災以降低迷していた需要に底打ち感が出ており横這いと思われる。  
冷媒管はルームエアコン同様好調を示したが、夏後半は天候不順もあり通常水準に戻っている。

こうしたことから、28年度は111.1千トンと27年度比増加を見込んだ。  
(対前年度比+2.5%)

(内訳) 上期	56.3千トン (+8.6%)	下期	54.8千トン (▲3.0%)
内需	96.5 " (+3.3%)	輸出	14.6 " (▲2.4%)

### 3. 2. 2 黄銅管

28年度の国内の給排水衛生管は大きな増減なく横這いと思われる。

自動車部品は海外シフトが進み国内での生産は減少傾向。輸出は若干の増加を見込んでい  
る。二輪車のキャブレターノズル用途は国内減少、海外横這い。  
デジタルカメラ向けマウントは今後復調傾向が予想される。

コンデンサー管については、国内は造船需要が引き続き堅調。電力・石油化学分野は市場  
縮小にて減少の見通し。輸出については海外造船の大幅減、海水淡水化プロジェクトの停滞  
により物件が減少するため大幅な減少を予測している。

こうしたことから、28年度は8.5千トンと、27年比減少を見通した。(対前年度比▲6.7%)。

(内訳) 上期	4.0千トン (▲13.7%)	下期	4.5千トン (+0.6%)
内需	7.5 " (▲0.5%)	輸出	1.1 " (▲35.2%)

## 3. 3 棒線製品

### 3. 3. 1 銅棒

ブスバー需要のうち太陽光発電需要が落ち込むがトータルでは前年並み。  
電力関係についてはスマートメーターや電線更新需要により増加。  
設備投資では携帯電話関係など国内設備需要は低調な動き。  
ビル向けは下期多少増加の見込み。輸出は比較的堅調。  
増加基調を続ける輸入材については、円高基調により安価な輸入材の勢力が強まっており、  
27年度並もしくはそれ以上の増加が予想される。

こうしたことから、28年度は30.9千トンと、27年度比微増を見通した。  
(対前年度比+0.3%)。

(内訳) 上期	15.0千トン (▲2.0%)	下期	15.9千トン (+2.7%)
内需	29.0 " (▲0.8%)	輸出	1.9 " (+22.3%)

### 3. 3. 2 黄銅棒

28年度の黄銅棒は、27年度後半より始まった緩やかな回復に伴い、今後も住宅関係の緩やかな回復傾向に合わせ増加基調を辿ると予測。下期は29年4月に予定されていた消費増税が延期により年度後半の調整も予想されるが緩やかな増加基調は変化ないと見られる。

ガス機器は住宅関連向けに回復傾向が続く。消費増税の延期で多少の調整が見られるが輸出向けの堅調も含め安定推移を予想している。

水栓金具もガス機器同様緩やかな上向き傾向と見られる。一部水栓金具メーカーに国内回帰の動きも見られ、27年度比増加を予測している。

バルブ類は安定横這い、中国経済のスローダウンにより機械類の需要は弱含み予想も出ている。

LPGバルブについては5%程度上回ると見られ、黄銅棒の増加を予測している。

自動車は比較的高水準で推移の見込み。文具は引き続き堅調と見られる。

精密機械は設備投資増に伴う動きが見られる。

流通販売は内需の回復に応じた動きで増加を予測している。

輸出は円高が心配されるが、下期以降回復傾向を予想している。

消費増税の延期により駆け込み需要は見込めないものの、東京オリンピック需要による上向き分も加え増加基調が期待される。

こうしたことから、28年度は185.3千トンと、27年度比増加を見通した。  
(対前年度比+3.2%増加)。

(内訳) 上期	90.3 千トン	(+3.5%)	下期	95.0 千トン	(+3.0%)
内需	175.9 "	(+4.3%)	輸出	9.4 "	(▲14.0%)

### 3. 3. 3 銅線

自動車の需要は新車投入もあり28年度は回復。ソーラー案件は投資が減少により減少見通し。輸出は東南アジアの自動車生産量が落ち込みにより低水準が継続すると思われる。

こうしたことから、28年度は3.1千トンと、27年度比減少を見通した。  
(対前年度比▲1.8%減)。

(内訳) 上期	1.5 千トン	(▲3.0%)	下期	1.6 千トン	(▲0.6%)
内需	3.1 "	(▲1.9%)	輸出	10 トン	(+66.7%)

### 3. 3. 4 黄銅線

28年度のワイヤカット電極線は自動車生産の安定的な動きに伴い安定的な推移と見込まれる。蛍光灯ピンと乾電池集電棒は海外向け含め増加が期待される。

圧造線は横這い傾向にある。パチンコ釘は年度内横這いと見られる。

ファスナー線の国内需要は 27 年度暖冬の影響でコート、ワンピース等、重衣料の在庫が増加したことにより上期に調整したが下期以降は回復を見込んでいる。輸出向けは中国経済の減速の影響から前年割れを見込む。

こうしたことから、産業用途の内需が微増傾向に対しファスナー線需要の海外弱含みにより、28 年度は 30.5 千トン、27 年度比微増を見通した。(対前年度比 1.1%増加)。

(内訳) 上期	15.0 千トン	(▲4.0%)	下期	15.5 千トン	(+6.7%)
内需	21.9 〃	(+3.5%)	輸出	8.6 〃	(▲4.4%)

### 3. 3. 5 青銅棒線

自動車は中国経済の動向から上期は低調であったが、下期は回復傾向の見込み。建機は東京オリンピックや復興のインフラ整備、リニア工事などで上向く予想。輸出については中国経済の影響により低迷気味で推移を見込んでいる。

こうしたことから、28 年度は 3.9 千トンと、27 年度増加を見通した。(対前年度比+3.3%)。

(内訳) 上期	1.9 千トン	(▲1.8%)	下期	2.0 千トン	(+8.5%)
内需	3.7 〃	(+5.4%)	輸出	0.2 〃	(▲24.8%)

### 3. 3. 6 洋白他棒線

半導体は上期比較的堅調に推移したものの下期はスローダウンの見込み。スマートフォン関連を主体に内需は減少、輸出は増加。自動車は中国減税効果、地震の挽回生産もあり下期は堅調の見込み。

ファスナー線については、主に欧州で代替材が増加しているため洋白線は減少を予測している。

こうしたことから、28 年度は 5.6 千トンと、27 年度比減少を見通した。

(内訳) 上期	2.6 千トン	(▲23.1%)	下期	3.0 千トン	(▲3.3%)
内需	3.5 〃	(▲14.5%)	輸出	2.1 〃	(▲12.1%)

以上